

# 耐震診断結果の見方

建築物の耐震診断結果【例】

建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果				安全性の評価 (Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ)	耐震改修等の予定		備考
				Is/Is <sub>0</sub>	1.01	C <sub>TU</sub> S <sub>D</sub>	0.49		内容	実施時期	
〇〇〇〇〇〇	豊島区△△△	.....	(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版):鉄骨が充複材の場合	Is/Is <sub>0</sub>	1.01	C <sub>TU</sub> S <sub>D</sub>	0.49	Ⅲ			

耐震診断義務付け対象建築物の耐震診断結果の公表について  
(技術的助言)【抜粋】

耐震診断の方法	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。)	Ⅱ (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。)	Ⅲ (地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。)
(5-6) 一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」(2009年版)	鉄骨が充複材の場合 $Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.125 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	鉄骨が充複材の場合 $1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.25 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$
	鉄骨が非充複材の場合 $Is/Is_0 < 0.5$ 又は $C_{TU} \cdot S_D < 0.14 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	鉄骨が非充複材の場合 $1.0 \leq Is/Is_0$ かつ $0.28 \cdot Z \cdot R_t \cdot G \cdot U \leq C_{TU} \cdot S_D$

- ①耐震診断結果から「耐震診断の方法の名称」を確認し、技術的助言の表から同じ「耐震診断の方法」を探します。
- ②耐震診断結果から「安全性の評価結果」の数値を確認し、①で探した欄と照らし合わせます。
- ③照らし合わせた結果から耐震診断結果の「安全性の評価(Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ)」が決まります。